

# 園だより

## おおきな樹で大切にしていること ～テレビ、ゲームの与え方～



スマートフォンの普及により、場所を選ばずに動画を観たりゲームが出来るようになってきました。普段の遊びの中、家事の間や外出先への移動時間、待ち時間などお子さんに静かにしてほしい時に与えている家庭もあると思います。しかし、いざ『おしまいにしようね』と伝えると「やだ!」「もっと遊びたい!」と応じてくれず困ってしまった経験はありませんか?ここでは、テレビやゲームの与え方や、気持ちを切り替え方のポイントをお伝えします。

まずは、始める前や、終わりにしたい時間の前に「〇時になったらおしまい」、「このテレビ(動画)を観たらおしまい」「呼ばれたらおしまい」など、終わりのタイミングを伝えるといいでしょう。おおきな樹では、時計に矢印を貼って「長い針が〇になったらお片付けするよ」と、視覚的にも分かりやすいように伝えています。テレビや動画やゲームを始める時には、どのくらいの時間がかかるのか、大人が把握しコントロールすることも大切です。例えば、30分しか時間が無い時に1時間の動画を見始めたら途中でやめることができません。大人だって好きなドラマを観ている時に途中で「おしまい」と言われてもやめたくない時がありますよね。

切り替えるポイントとしては、「次〇〇するよ」と、次の行動を伝えてあげるといいでしょう。「お買い物に行くよ」と伝えるより、「〇〇を買いに行こう」と、具体的に伝えると、より切り替えやすくなります。

最近では、2歳児や3歳児でも楽しめる動画や知育ゲームなども増えています。『やめられない』と困ることもありますが、動画やゲームから興味を持ち、色や数、言葉や名称を覚えたりと知識が増えていくこともあるので、上手に使っていただけるといいですね。

## 12月の予定

8日(金)	避難訓練
12日(火)	誕生日会 (にじぐみ)
13日(水)	誕生日会 (ほしぐみ)
13日(水)	身体測定 (つきぐみ)
14日(木)	身体測定 (ほしぐみ)
15日(金)	身体測定 (にじぐみ)
22日(金)	お楽しみ会
22日(金)	引き取り訓練・帰りのバス送迎なし



## 12月の歌

- ♪ジングルベル
- ♪あわてんぼうのサンタクロース

## バス遠足

11月8日～10日にバスで遠足へ行きました。にじ組、ほし組は平塚総合公園へ行きました。少し色づいた木々にマツボックリやドングリを目にし、手に取りたい気持ちを抑えて歩きました。リスやタヌキやポニーなどたくさんの動物を見たとき、子どもたちからは「かわいい!」、「こっちにおいで」などの歓声があがりました。遊具で遊んだときは園にはない大きなすべり台に心を奪われた子が多かったです。つき組は雨だったためバスドライブになりました。平塚総合公園まで行き「また、くるよ～」と公園に言ってきました。公園を後にして車検場をぐるりと一周しました。たくさんのお車を見ることができました。途中、新幹線を見ることができ、子どもたちは大喜びでした。どのクラスもみんなと一緒に楽しい時間を過ごしました。

## お知らせ

○生活発表会について  
11月30日(木)に生活発表会があります。時間等詳細については、先日お配りした『生活発表会のお知らせ』または、生活発表会のプログラムをご確認ください。



## 11月生まれのお誕生会

**つきぐみ** 11月15日につきぐみのお誕生会をしました。お誕生児のお子さんに前に出てきてもらい、お誕生日のケーキが出てくると、みんな目を輝かせて見ていました。ロウソクに火をつけ、お誕生日のお友だちから順番にロウソクの火を吹き消しました。他のお友だちが吹き消す時に「フーフー」と遠くから吹き消そうとしている子もいて、とても可愛らしかったです。最後にお楽しみで「ばけばけばけたくん」のフェルトシアターを見て楽しくお祝いすることができました。

**にじぐみ** にじぐみでは、お誕生日を迎えたお友だちに自分で考えた質問をすることを楽しみにしているお子さんもいます。「好きな色は何ですか?」「好きな果物は?」「ピカチュウは好き?」などいろいろな質問を投げかけていました。お誕生日のお友だちが「ピンクです」「いちご」と答えてくれると、やりとりを聞いているお子さんも笑顔でうなずいたり拍手してくれたりしました。最後は「ふしぎな電子レンジ」で出来上がったお料理やデザートを一一人一個ずつパネルボードに貼って、パーティごっこをしてお祝いしました。

## 職員研修

10月の職員研修は、9月の虐待防止に続いて、身体拘束についての研修を行いました。介護施設などの成人の方が暮らしている施設では、利用者の安全確保のために行なわれている身体拘束ですが、身体拘束を安易に行わないようにするためにはどのような対応が必要なのか、動画視聴や資料の読み合わせ、グループでの話し合いをしながら全体で共有しました。実際に支援をしていく中で、支援として理由のない行動の制限を行わないように、常に子どもの目線を忘れずに、その子にあった支援が大切であるということを改めて学んだ研修となりました。